

戦前の共産党員

伊藤千代子の志継ぎたい

あす9月24日は、戦前の治安維持法の下、特高警察の拷問で獄中死した日本共産党員・伊藤千代子の命日です。1929年、千代子は24歳でした。千代子を知り、「前を向いた」女性がいま。沖縄県南部に住む神谷美咲さん(36)＝仮名＝です。

沖縄・南部 神谷美咲さん(仮名)

神谷さんが千代子を 境に見舞われていました。知ったのは10年前。当 時、神谷さんは2児の 子育て真っ最中でし

た。父親が労災事故で 突然死。その喪失感か ら抜け出せないうち に、夫が失業という苦



戦前の日本共産党員、伊藤千代子の生き方にひかれるという神谷美咲さん＝那覇市

命かけ社会変革 感動

“入党を真剣に考えています”

賃金と職場での無権利に苦しむ女性労働者たちに接しながら、どうしてよいかわからず、ただひとり悩む日々だった、と言います。代子と私たちは、時代を超えて社会を変えるという志を通じて結ばれています。千代子私の背中を押してくれました」

『こころざしつたふれし少女(おとめ)』(党中央委員会出版局)でした。千代子をはじめ女性たちの志とその生涯を紹介した本です。神谷さんは今、職場の共産党後援会での活動とともに、難関といわれるある国家資格試験に挑戦中です。「私の中で生きている千代子の志を引き継ぎ、よりよい日本と世界をめざすうえで、なくてはならない日本共産党への入党を真剣に考えています」と力をこめました。

「自分が一番苦しい時、人々の苦難に目をむけ、その原因を知らせて社会を変えようとする」千代子と同じ20代半ばだった神谷さんは、職場に個人加盟労組を結成し、各種選挙で日本共産党を応援するようになった。千代子と私たちが、時代を超えて社会を変えるという志を通じて結ばれています。千代子私の背中を押してくれました」

(山本真直)